

第 190 回国連自動車基準調和世界フォーラム（WP.29）  
車両等の世界技術規則協定※（1998 年協定）採択 25 周年の祝辞  
（豊田国土交通副大臣ビデオメッセージ）



日本国、国土交通副大臣の豊田俊郎でございます。

本日は、「車両等の世界技術規則協定※」、いわゆる「1998 年協定」の 25 周年記念式典が挙行されるに当たり、一言御挨拶を申し上げます。

我が国は、道路交通の安全確保の取組みとして、2025 年までに、年間の交通事故死者数を 2,000 人以下とすることを目標に、高齢運転者による運転操作ミス等による事故の防止、自動運転車の開発促進など、様々な対策を講じております。

また、2050 年カーボンニュートラルの実現に向けて、自動車の電動化を推進しつつ、特定の技術に限定することなく、多様な道筋を追求することとしています。

これらの道路交通の安全確保や環境保全是グローバルな課題であり、その対策に当たっては、国際的な連携が極めて重要であると認識しています。

我が国は、安全・環境性能の高い自動車の全世界的な普及を促進するため、WP.29 の活動に積極的に参画してきました。

1998 年協定は、我が国、米国、そして欧州連合が連携して原案を作成し、WP.29 において採択されました。我が国は、同協定の発効にあわせて加入し、水素燃料電池自動車や電動車の安全性、歩行者保護、排出ガス試験法など、多様な自動車技術に対応した世界技術規則の策定に貢献してきました。

本年からは、WP.29 で副議長を、また 1998 年協定執行委員会で議長を、それぞれ務めています。国際的な自動車基準調和の取組に、関係国とも協力し、より一層、貢献して参りたいと思います。

1998 年協定については、これまでに多数の世界技術規則が策定され、また締約国は、世界の主要な自動車市場をカバーするなど、世界レベルでの安全確保や環境保全に大きな役割を果たしてきました。

一方で、気候変動への対応、新興国における自動車産業の急速な発展など、自動車を取り巻く環境は大きく変わってきており、協定の運用や WP.29 の活動についても、こういった変化に対応していくことが必要です。

全世界におけるより良い道路交通の実現のため、我が国は、安全確保や環境保全、脱炭素に向けて、1998 年協定の発展や WP.29 の活動に、さらに積極的に貢献していく決意であることを、ここに申し述べます。

最後に改めて、日本政府を代表し、1998 年協定の 25 周年に心より祝意を表し、同協定の一層の発展を祈念して祝辞といたします。

〔※ 協定の略称。正式名称は、「車両並びに車両への取付け又は車両における使用が可能な装置及び部品に係る世界技術規則の作成に関する協定」〕